

シリーズ「きょうだいの思い」 26

『ダンプカー』

自分の年齢を順に逆上ってくると、前回の『発作』の次に大きな出来事として記憶に残っているのは、弟が交通事故に遭ったことである。

国道170号線の春日町の交差点で、弟がダンプカーにひかれた。母と弟が出かけていた途中で、二人は別行動をとり、弟が用事を終えたら城跡公園で待ち合わせをしていたようだが、待てど暮らせど弟が城跡公園に姿を現さないの、母が家に帰宅すると警察から留守番電話が入っていた。

後々に、母が警察に行くと、弟の自転車はグチャグチャに潰れていて、母は寒気がしたと言った。警察官から『よく命が助かりました...自転車が身代わりになったのでしょうか』と言われたらしい。

弟は、擦り傷や打撲の怪我をしたが骨を折ることもなく済んだ。もしかしたら医師や私達にはわからない痛みはあったかも知れないが、弟は抽象的な痛みを明確な言葉で訴えることはできない。ダンプカーに巻き込まれたまま数十メートル引きずられたのだから、何かしらの痛みは残っていたはずだ。

当時は、父も私も平日は働いていたので、私が事故を知ったのは帰宅してからの夜だった。弟がダンスにもたれかかり、グッタリして座っていた姿は、今でも鮮明に覚えている。

「大丈夫？」「ダイジョーブ」

会話にならない弟のオウム返しが姉としてなんだか切なかったが、どれだけの恐怖を味わったのかは、弟のグッタリした姿から感じ取れた。あんなに生氣のない弟の姿は、後にも先にも、あの時だけだった(笑)

事故の状況は、弟が赤信号の横断歩道を飛び出してきたところを、青信号で直進してきたダンプカーにひかれたと聞いた。真相はダンプカーの運転手だけしかわからなかったが、母は弟が赤信号を飛び出したことにどうも腑に落ちなかったようで

「自転車の前輪が車道にはみ出していた状態で赤信号を待っていたのを、ダンプカーにひかれたのではないか？」

「渡ろうとした直後に赤信号になって、歩道に戻ろうとしたところをひかれたのではないか？」

母は事故の状況をあれこれと想像していた。

～つづく～

まえほ通信

発行日 2013年12月1日

発行元 自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



年末年始のご案内

2013年も沢山のご利用を頂き、誠にありがとうございました！

年末・年始、例年通り下記の日程にさせていただきます。宜しく願い致します

ショートステイ		ガイドヘルプ・ホームヘルプ	
年内最終ご宿泊日	～12月29日(日)	最終日	12月29日(日)
終了日時	12月30日(月) 屋食前後のお送り迄	開始日	1月4日(土)
開始日時	1月4日(土) 午後のお迎えから		
年始初日ご宿泊日	1月4日(土)～		

※但し、最終日・開始日共に人員等の限りがございますので、ご希望に添えない場合はご容赦の程、宜しくお願い申し上げます。